

今月の ひとこと

投資で安定的に成功する方法は「分散されたポートフォリオを長期で保有する」というひと言に尽きます。しかし、多くの方がそれをわかっていながら実行できない。それは心が欲望と恐怖に支配されているからです。できるだけ短期でたくさん儲けたいという欲望と値下がりの現実から逃れたいという恐怖です。これから逃れる非常に効果的な方法が瞑想です。私は90年代の初めから瞑想をしていますが、瞑想を長く続けると意識の空間軸と時間軸が広がることを感じるのです。空間軸が広がることで日本の少数銘柄を対象にするだけでなくグローバル株式インデックス・ファンドを保有すれば良いという信念が固まります。また、時間軸が広がることで何十年も先の自分のために長期積立投資をすることが無理なくできます。行動ファイナンスは人間が犯しやすい投資の違いに気づかせてくれます。この間違いを簡単に乗り越えるためには瞑想などによって自分の心のあり方を変えていくことにその鍵があるのだと思います。

+++++

I-OWAからのお知らせ

●岡本和久の新著、「お金と心～200パーセントのしあわせ持ちになれるシンプルな生き方」（知玄舎、1400円＋税、Kindle版は1080円）が発売されました。お近くの書店などでお求めください。2019年2月10日

（日）に東京のヒューリック・コンファランス浅草橋で出版記念講演会があります。詳細は以下をご覧ください。こくちーず（URL：<https://kokucheese.com/event/index/547723/>）

+++++

FACEBOOK上で約3600人のクラブ・インベストライフの仲間が参加し、活発な議論をしています。投資未経験者の方の質問や疑問も大歓迎です。FACEBOOKに登録している方、ぜひ、ご参加ください。

鉄人寄席誌上ライブ ひと言コーナー

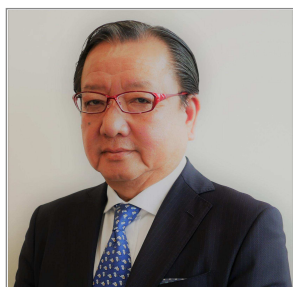
講演：大江 英樹氏 馬淵 治好氏 竹川 美奈子氏 岡本 和久 レポーター：佐藤 安彦



大江：ここでは、別に座布団が出るわけではないのですが、大喜利として個別のパートでは言いきれなかったことや語りきれなかったことを話して欲しいと思います。あとは、皆さんからのご質問もいただこうと思っています。ではまずは岡本さんにお聞きしたいのですが、今日もとても良いお話で人生における資産運用というテーマだったかと思いますが、色々な面から見て、資産運用にとって大切なことを3つ挙げていただけますか。

I-OWAマンスリー・セミナー講演より 日本人にとっての第一次世界大戦

講演：板谷 敏彦氏 レポーター：赤堀 薫里



現代との歴史的な類似性として経済史では、「トウキュディディスの罠」が言われています。古代ギリシャの戦史を書いたのがトウキュディデスです。スパルタが覇権を持っている時にアテネが勃興してきた。徐々に圧力を感じはじめたのがスパルタです。このような時は、戦争が勃興しやすいという事例を書いたモノです。台頭する国家は自国の権利を強く意識し、より大きな影響力（利益）と敬意（名誉）を求めるようになる。過去500年のうちでこうしたケースは16回あり、そのうち12回は大きな戦争になりました。直近にあったのが第一次世界大戦です。

クラブ・インベストライフとは？

人生を通じての長期投資は孤独な長旅です。この長旅に耐え、大きな喜びを得るには、資産運用を行うための基礎となる知識と孤独な旅を支えあう仲間が必要です。「将来の自分はいまの自分が支える」ほかない時代、クラブ・インベストライフの活動は、豊かで幸せな人生のための投資を目指しています。

毎月、ネット上で会報誌を公開するほか、FACEBOOKやTwitter上で議論の場を提供し、各地でのセミナーを開催しています。

まったく投資の経験のない方も多数、参加しておられます。大手金融機関から完全に独立しているので、特定の商品をお勧めすることも販売することは一切ありません。

<FACEBOOK、TWITTERへの 投稿の際のお願い>

1. 個別商品の販売・推奨、あるいはそれに類する投稿はご遠慮ください
2. 発言はあくまで個人としてのものとしてください
3. 企業広告はご遠慮ください

I-O ウェルス・アドバイザーズ のメール・マガジン

メルマガへのご登録は下記のメールアドレス宛に、空メールを送信下さい。購読は無料です。

mag@i-owa.com

毎月15日配信 無料

Facebook

Facebook上のグループ、クラブインベストライフ
<http://www.facebook.com/groups/investlife/>

Facebookへの登録が必要です。リクエストボタンを押して入会申し込みをしてください。

Facebookへはこちらをクリック

Twitter上のグループ
クラブインベストライフ
http://twitter.com/c_investlife

Twitterへの登録が必要です

@c_investlifeさんをフォロー

バックナンバー 一覧

- 2018年12月16日発行 Vol.192
- 2018年11月15日発行 Vol.191

I-OWAマンスリー・セミナー講演より 投資耐久力をつける知識 (下)

講演：岡本 和久 レポーター：赤堀 薫里

- [2018年10月15日発行 Vol.190](#)
- [2018年09月18日発行 Vol.189](#)
- [2018年08月15日発行 Vol.188](#)
- [2018年07月16日発行 Vol.187](#)
- [2018年06月15日発行 Vol.186](#)



3回シリーズでお話してきた今回は、歴史と心構えについてお話しします。歴史から学ぶことは、バブルは発生して崩壊する。しかし、いつバブルが発生して崩壊するのかは予想できない。大体バブルが発生して終わった後にあればバブルだったとわかります。いま「これがバブルだ!」と言っているうちはあまりバブルではないことが多いのです。



知って得する、ちょっと差がつく トリビア・コーナー

トリビア研究家 末崎 孝幸



☆コアラとユーカリの葉 ☆ゼロ戦（零式艦上戦闘機） ☆大川常吉の顕彰碑 ☆瞬間接着剤開発のきっかけ ☆むすんでひらいて（作曲者は？） ☆雷門（浅草寺）

資産運用こぼれ話 「お金と心」

寄稿：岡本 和久



久しぶりに本を書きました。共著本を除くと二年ぶりの本です。年齢（よわい）70を超えたとき、これからは本をどんどん出するのをやめて何年間に一冊、本当に書きたいことだけを書くことにしようと決めました。大それた話ですが、アメリカの「敗者のゲーム」や「ウォール街のランダム・ウォーカー」のように数年に一度、改訂版を出すというのが私の理想です。夢のような話ですが、何年かに一度ずつ「お金と心」の改訂版をだしていければと願っています。

インベストラيف・アーカイブより 「音楽と資産運用 その先にあるものを求めて」 (2003.10)

座談会：輪嶋 東太郎、伊藤 宏一、澤上 篤人、平山 賢一

お金は何のためにあるのだろうか？そして音楽は？それはやはり、良く生きるための手段なのではないだろうか？ならば物質的な視点を離れて、もっと目に見えないものへの感受性を解き放ってみたい。そしてそれが、今後のフロー型経済での生き方につながるのではないだろうか

参考データ・コーナー

基本ポートフォリオのパフォーマンス

データ提供：イボットソン・アソシエイツ・ジャパン／投信まとなび

12月は4資産成長型が-5.44%(2018年間では-7.31%)、2資産成長型が-5.61%(2018年間では-7.21%)のパフォーマンスでした。世界各地のパフォーマンスは <https://www.ibbotson.co.jp/market/> でご覧いただけます。

投信データ・ウォッチ

データ提供：イボットソン・アソシエイツ・ジャパン／投信まとなび

データ提供：イボットソン・アソシエイツ・ジャパン／投信まとなび 今回は純資産上位ファンドの12月末の運用状況をリストアップしていただきました。純資産額1000億円以上はひふみプラス、野村インド株投資、グローバル・ロボティクス株式の三つのファンドです。

岡本和久のI-OWA日記

★今年も歌舞伎三昧です ★ヨソウはヨソウ ★新著「お金と心」出版および出版記念講演会のお知らせ ★若者たちに講演 ★第159回マンスリー・セミナーが開催されました

[詳細はこちらをご覧ください。](#)

セミナー案内

2019年1月20日（日）12:30～16:30 東京

I-OWAマンスリー・セミナー（160回）

■会場：東京都渋谷区広尾1-8-6-7F（当社オフィス） <http://www.i-owa.com/company/access.html>

■プログラム

12：30～13：30：「お金と心：資産運用、瞑想、生き方」（講師：岡本 和久）

13：40～14：40：「2019年、どうなる世界と日本、経済と市場」（ゲスト講師：ブーケ・ド・フルーレット代表 馬淵 治好氏）

14：45～15：30：フリー・ディスカッション

15：30～16：30：懇談会

■スポット受講料：教室での受講は10000円＋税 予約必須、動画での受講は5000円＋税 お申込み、お問合せ： info@i-owa.com

1月26日（土）15：30～17：30 京都

全国女性税理士連盟 税理士及び税理士試験合格者祝賀会

■プログラム

（1）アメリカに学ぶ老後資金対策

（2）100歳までのお金との付き合い方」（講演：岡本 和久）

■会場：グランドプリンスホテル京都 <https://www.princehotels.co.jp/kyoto/>

■参加者：20名

■連絡先：飯田 真弓（mayumi-i@iidatax.com）

2月2日（土）10：00～16：30 大阪

鉄人寄席IN大阪（共演：大江 英樹氏、竹川 美奈子氏、馬淵 治好氏）

■会場：毎日インテシオ 4階 大阪市北区梅田3-4-5

■プログラム

1. 「幸せになる経済学」10：00～11：00

大江 英樹氏：経済コラムニスト オフィス・リベルタス代表

2. 「お金と心 200%の人生の生き方」11：05～12：05

岡本 和久：投資教育家 I-Oウェルス・アドバイザーズ株式会社 代表取締役

3. 「ビジネスパーソンのための『新お金管理術』」12：45～13：45

竹川 美奈子氏：ファイナンシャル・ジャーナリスト LIFE MAP, LLC 代表

4. 「みんなで良くする投資業界」13：50～14：50

馬淵 治好氏：国際アナリスト ブーケ・ド・フルーレット代表

5. 「大喜利」～鉄人トークセッション 15：10～16：30

■参加費：10000円（ランチ、飲み物付き）

■懇親会もあります（参加費3000円）

■お申込み：<https://www.kokuchpro.com/event/tetsujinosaka/>

2月8日（金）14：30～16：00 東京

企業年金管理士（確定拠出年金）更新研修

■プログラム

1. 「DC法令改正について」（講師：連合会確定拠出年金推進室 根津 真雄氏）

2. 「人生100年時代の資産運用」（講師：岡本 和久）

■企業年金連合会 研修特別大会議室 東京都港区芝公園2-4-1 芝パークビルB館11階 ■事務局：kensyukoushi@pfa.or.jp

2月10日（日）13：30～16：30（13：15開場）東京

岡本和久新著「お金と心～200%のしあわせ持ちになれるシンプルな生き方」出版記念講演会

■プログラム

1. 講演（岡本 和久、90分）

2. 講演（マハリシ総合教育研究所代表、鈴木 志津夫氏、30分）

3. 質疑応答（30分）

講演会終了後、懇親会があります

■東京都台東区浅草橋1-22-16 ヒューリック浅草橋ビル3階 HULIC CONFERENCE [ヒューリックカンファレンス]

■参加費：2000円 上記書籍（知玄舎刊、1400円＋税）をテキストとして使いますのでご持参ください。会場でも販売します。

■定員：65名

■講演会終了後、懇親会があります（ワンドリンク付き4000円）

■お申込み：こくちーズ（URL：<https://kokucheese.com/event/index/547723/>）、お問合せは当社（info@i-owa.com）まで。

2019年2月17日（日）12:30～16:30 東京

I-OWAマンスリー・セミナー（161回）

■会場：東京都渋谷区広尾1-8-6-7F（当社オフィス） <http://www.i-owa.com/company/access.html>

■プログラム

12：30～13：30 「長期に成長する企業の見分け方」（講師：岡本 和久）

13：40～14：40：「東洋・西洋の貨幣伝統と日本の貨幣」（ゲスト講師：考古学者、東京大学名誉教授、今村 啓爾氏）

14：45～15：30：フリー・ディスカッション

15：30～16：30：懇談会

■スポット受講料：教室での受講は10000円＋税 予約必須、動画での受講は5000円＋税 お申込み、お問合せ： info@i-owa.com

2019年3月17日（日）12:30～16:30 東京

I-OWAマンスリー・セミナー（162回）

■会場：東京都渋谷区広尾1-8-6-7F（当社オフィス） <http://www.i-owa.com/company/access.html>

■プログラム

12：30～13：30 「『遊びの時代』のお金との付き合い方（仮題）」（講師：岡本 和久）

13：40～14：40：「投資について明るく語ろう（仮題）」（ゲスト講師：さわかみ投信会長、澤上 篤人氏）

14：45～15：30：フリー・ディスカッション

15：30～16：30：懇談会

■スポット受講料：教室での受講は10000円＋税 予約必須、動画での受講は5000円＋税 お申込み、お問合せ： info@i-owa.com

3月23日（土）18：00～20：00 川崎市

SG武蔵小杉勉強会

■会場：川崎市中原市民館 第1会議室

■プログラム：人生三つのステージでのお金との付き合い方（講師：岡本 和久）

[詳細はこちらをご覧ください。](#)

Page Top

[バックナンバー](#) | [お問い合わせ](#) | [ご感想](#) |

Copyright © I-O Wealth Advisors, Inc. All rights reserved.



鉄人寄席誌上ライブ ひと言コーナー

講演：大江 英樹氏、馬淵 治好氏、
竹川 美奈子氏、岡本 和久
レポーター：佐藤 安彦

(2018年8月4日に開催場所:ヒューリックカンファレンスで開催された鉄人寄席での講演をレポートします。お楽しみください。)

大江:4人、それぞれによる講演を受けて、ここでは、ひと言コーナーとして個別のパートでは言いきれなかったことや語りきれなかったことを話してほしいと思います。まずは岡本さんにお聞きしたいのですが、今日もとても良いお話で、人生における資産運用というテーマでしたが、いろいろな面から見て、資産運用にとって大切なことを3つ挙げていただけますか。

岡本:3つですか。ここで絞ってしまうと、さっきの1時間の話は
何だったんだと言われてしまいそうですけど(笑)、やってみましょうか。

では、今働いている方が退職後のためにどういう準備をするべきかという視点で申し上げますと、1番目は、グローバル株式インデックスファンドを積み立てるということ。2番目は、何があっても絶対に止めないこと。3番目は、今の給料は、今の生活費と退職後の生活費の両方なんだということを肝に命ずること。この3つでしょうか。

大江:1番目は皆さん同じ考えだと思います。2番目はアメリカの投資教育でも言われていることですな。



岡本:長期投資というのは文字通り長期でやらないと効果が出てきませんし、途中で止めると長期投資にはならないので、とにかく続けること。そういった意味で投資耐久力が重要だと思います。私は十数年前から、ファイナンシャル・ヒーラー®と名乗っているのですが、要するに相場が荒れたりして不安になったときに投資を続けられるように癒しを与えてあげてほしい



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

ます。投資をするのはみんな心配なんですよ。誰だってそうですね。私だって心配になる時がありますからね。

心配はわかりますが、「大丈夫ですよ。こういうことは時々、起こるんです」と言うことで、少しだけ理論的な話や、過去の例なども紹介しながらお話をしあげる。それで、不安を乗り越えて続けていけるだけの力を与えてあげる。そのような知識や言葉を提供することも私の仕事のひとつなのではないかと考えています。そこで投資の不安に対する癒しを与える人、ファイナンシャル・ヒーラーと名乗っています。

何年か前にモシェ・ミレフスキーという有名な学者と話す機会があったのですが、私がファイナンシャル・ヒーラー®だということを言ったら海外ではファイナンシャル・サイキアトリスト (psychiatrist)と呼ばれていて注目されているんだと言っていました。投資家の心の支えをしあげる役割が非常に重要になっているという話を聞いて、同じことを考えているんだなと感じました。

馬淵: 自分の経験でお話をさせていただきますが、続ける、続けないというのは、たぶん市況が振れたときに怖くなって止めてしまうという話なんだと思いますが、私の場合は竹川さんが言う使途不明金在家計の中で多すぎたんですね。積み立てを始めた頃は特に。そうすると「お金が足りないな。それなら積み立てを崩してしまおう」ということになってしまうんですね。やっぱり支出計画が甘くて、それで続けられないという経験が若い時にはありましたね。



岡本: そういう意味では iDeCo は良いですよ。引き出せないから。

大江: そうですね。ただ、iDeCo でも何でも気を付けてほしい事があります。私は長い間、企業型確定拠出年金の仕事に関わってきましたけど、アベノミクスの影響で2012年からずっと株価が上がって、TOPIXでも3倍くらいになっているのに、まだ損をしている人がたくさんいるんですね。どういう人が損しているのかというと、リーマンショックの時にビックリして怖くなって、株式投資から定期預金に変えてしまい、そのままにしている人なんですね。これではプラスにならないですよ。やっぱりこういう時に我慢するということと、馬淵さんがおっしゃるように家計を見直してしっかりやるかというのは両方大事ですね。ですから、今日の竹川さんのお話は本当に良かったです。いつもは投資信託の話がメインなのですが、ちゃんとファイナンシャル・プランナーなんですよ(笑)。今日お話いただいた内容は、企業に行き話される



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

ことが多いと言われているように、従業員であれば普通に聞ける話なんでしょうけど、今回のようなオープンな場所で聞ける機会はまずないので、今日はすごくお得だったと思います。とは言っても、竹川さんといえば投資信託と思って参加して来られた方もいると思いますので投資信託のことで何かお話を聞きたいと思います。そこで、今度、小売業の丸井が投資信託を取り扱う証券会社を作るということで、その記者会見に出席されたそうですが、これについて何かお話しいただけますか。

竹川: 丸井グループが新しく証券会社を作って、投資信託の販売をしますという話なのですが、皆さんはご存じだったでしょうか。それで、珍しいのが、積み立て投資専門の証券会社だということなんですね。なので、一括で買うこともできないですし、株の取り扱いもしないということです。対象商品はつみたてNISA専用商品だけを扱うということで、当初はセゾン投信の2本と、ひふみプラスとコモンズ30の4本のみということです。いろいろな見方はあると思うのですが、今までの既存の金融会社とは別の所がそういったサービスを立ち上げるというのは面白いと思います。リアル店舗でセミナーをやったりしています。

また、オマモリというアクセサリーですけど、女性が自分の鞆に付けられるようなもので、裏にバーコードが書かれていて読み取ると自分の口座にログインできるというものを作ったりしているのですが、FPさんが丸井さんの店舗でセミナーをやらせて貰うと数十人の席に対して200人とか300人の応募があるくらい関心は高いようなんですね。関心が高い層はいるし集客もできるんだと思うんですけど、そこから実際に口座開設してクレジット払いで投資信託を買う人がどれくらいいるかというのが未知数ですね。

大江: 関心の高い層というのは、もう既にセゾンやひふみの投資信託を買っているんじゃないかと思いますよ。

竹川: そうなんですよ。なので、従来とは全く違う人たちを持てきたいのだと思います。

大江: クレジットカードで買うんですよ。

竹川: そうです。クレジットカード払いです。投資信託を購入してクレジット決済するので、クレジットが落ちないとダメということにはなりますね。丸井さん以外にも、ラインが野村證券と組んだり、KDDIが大和証券と組んだり、異業種からの参入が最近出てきたりしていて、従来の金融機関が想定していた手数料やサービスなど、別の観点から何かをしようと考えてやっているので、選択肢が広がるという意味では消費者にとってはよいことだとは思いますが、ただ、フィデューシャリデューティー的なことや金融機関としてキチンとしなければいけないので、その辺りがどこまでどうなるのかは今後の展開次第だと思います。ただ、丸井さんはゴールドカードに力を入れていて、売上の2割くらいがゴールドカード会員になっているようなので、そういう層を狙っているのかもしれませんが。



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

あとは、証券会社単体で黒字化するってかなり厳しいと思います。つみたて NISA 対象商品のみということは、購入時手数料はゼロですね。アクティブファンドを扱っているとはいえ、信託報酬が 0.5% くらいなので仮に 100 億円集めたとしても 5,000 万円くらいです。

岡本: 支払いは、クレジットカードの一括払いのみですか。

竹川: はい。分割払いやリボ払いはないですね。記者会見には、丸井グループの社長も出てきていたのですが、結局、証券会社単体で黒字化するというよりは、つみたて NISA の場合であれば 20 年非課税で投資できるので、引き落としをしてくれている間はエポスカードを持ってくれるので、それをメインカードとして他の消費もしてくれることでグループ全体としての手数料を取りたいと考えているのだと思います。

大江: 要するに買い物して貰うことで売上げを伸ばしたいということですね。デパートの友の会の話なんですけど、数字を見るとすごく利回りが良いのですが、結局お金を使わせる手段なんですよね。そう考えると、つみたて NISA が終わる 20 年後が狙われているのかな(笑)。でも、異業種が入るといえるのは、そのこと自体は悪いことではないですね。だけど、お金を使いに行く所とお金を貯めに行く所が同じだっていうのが何かしっくり来ないんですね。実は、過去にも同じようなものはいろいろあったんですね。店舗に銀行を作ったり、証券会社を作ったり。何度やっても同じ過ちを繰り返していたんですけど、そういうのとはまた違った方法で上手くやっていけるとよいなと思います。

竹川: イオン銀行さんは上手くやっていますよね。小売業の場合は、店舗にたくさんの方が来るので、それをなんとかしたいというのはあると思います。

大江: イオン銀行さんは、確定拠出年金の商品ラインナップが良いですね。

竹川: はい。手数料も低いですし、後発なので商品も揃っていますね。

大江: ここで話を換えさせていただきますが、さっきの竹川さんのパートのお話の中で面白いなと感じたことは使途不明金の話でした。やっぱりありますよね、使途不明金って。

竹川: はい。研修でお金の出入りを書いて貰うのですが、本当に帳尻が合わないんですね。皆さんの席を回りながら数字を見させていただくのですが「すごく残りますね」と声を掛けると、「そんな訳ない」とか言われるんですね。

大江: まず把握する順番として、手取収入の次に支出を持ってきて、残りが貯蓄や投資とするのではなくて、手取収入の次に貯蓄や投資を持ってくるという並べ方は新鮮でしたね。



長期投資仲間通信「インベストラيف」

竹川: 長年やっていて、普通に上からやっても合わないんだというのが、つくづく感じたことだったのです。

大江: 今日の竹川さんは今までにない芸風だったので、とても良かったです。言い換えれば、八代亜紀がジャズを歌うみたいな感じですよ面白かったです(笑)。

岡本: 使途不明金っていうけど、実際は人には言えないだけで本当は分かっているんじゃないのかな(笑)。

竹川: 本当になぜか分からないけどお金がなくなるってことは多いですね。男性の場合は飲み代だったり。あとは人によっては、緩んでしまうところがあるのかもしれないね。コツコツと節約していても例えば男性が飲み会で、つい多めに払ってしまうことがあったり、女性がエステやネイルにお金を使ってしまったったりとか、自分がお金を使ってしまうパターンがわかると、気を付けることができるのかもしれないね。

大江: 確かに、いかに使途不明金を把握するのが大事になってきますね。

竹川: どうしても分からない場合は、その分を積立てに回してしまうという方法があります。そして頑張っってその中で生活しようとしてみると、そこで正体がわかるかもしれません。

大江: つまり、投資や資産運用が大事だとか言いますが、そのもっと手前で、自分の収支を把握するというのがベースにあるという話ですね。

竹川: 利回りを2割上げるようにするよりも、投資や貯蓄に回せるお金を2割増やすという方が簡単だし、確実性は高いと思います。

大江: 資産運用に回す額をコントロールする方が、運用成績よりもずっと大事ですね。

竹川: はい。長期になればなるほど、大事になってきますね。

大江: 馬淵さんも、普段マーケットに関する話や市況の見通しを話す機会が多いと思うので、今日のようなテーマを話されるのは珍しいと思います。とは言え、やはり今日ご参加の皆さんが気になるのが、米中の貿易摩擦問題です。まずはこれについて、お話を聞かせてください。

馬淵: 市場への影響と経済への影響を分けてお話しすると、マーケットとしては段々と反応は薄くなっていると感じています。2018年3月の頃に比べると、最近はある意味で慣れっこになっ



長期投資仲間通信「インベストラيف」

ていると思いますし、悪い材料として織り込まれた部分もあると思います。また間接的にアメリカの産業自体が影響を受け始めていることで、中国からの反発というよりも、アメリカ内部の企業や、さらに州知事や議員からも反対の声が出てきています。その意味では事態はそう悪くならないかもしれないということでマーケットが戻るかもしれません。

一方、経済の面で言うと、今申し上げたような事で、ある程度修正はされるものの、今まで言ってきた事を全て取り消すというのはあり得ないので、来年のアメリカ経済は暗いのかなと思っています。これは米中の貿易摩擦だけの問題ではなくて、現在はアメリカ経済の足元が強いので利上げの話になると、金利敏感セクターに影響が出てくると思います。自動車の需要は確実にピークアウトしましたし、住宅もピークアウトまではっていないものの、6月の数字は良くなかったのも、いずれ落ちてくるのだろーうと思います。断片的ですが、マンハッタンの高級マンションの在庫が増えているとか、南カルフォルニアでも住宅にブレーキが掛かっているなどの数字も出てきています。貿易関連で中国もおかしくなってくると考えると、来年はアメリカ経済が悪くなり株価も下がって円高になるのかなと思っています。具体的な数字については、私のセミナーに来ていただければと思います(笑)。

大江:もう少し先の政治的な話を含めて考えた場合、中国がアメリカを凌ぐ超大国になる可能性があるから、今のうちにアメリカがやっけてしまおうと考えているのか、そういう部分はいかがですか。

馬淵:アメリカの中でも2つに分れていると思います。トランプ自身は恐らく今のようには考えてなくて、単に対中国の貿易赤字が大きいので、負けを勝ちにするために、中国は不正をしているみたいな話をしているのだと思います。彼は緻密に計算をして落とし所を見ながら話をするというよりは、取りあえず言ってみる。そこで相手の反応があるので、それを見てまた発言をする。ある意味アメリカ的な、良いことも悪いこともあるけど取りあえずやってみる、というものを背負っているんだと思います。しかしトランプ政権の中にも中国が台頭するのはけしからんと言って叩くことを考えている人たちもいます。議会の中にもそういった動きはあります。表面的に見た場合に、その動機が違っているのでごちゃごちゃしたように見えると思います。

大江:今戦うと、軍事的にも経済的にも明らかにアメリカの方が強いと感じていますが、馬淵さんはどう考えますか。

馬淵:中国もかなりしたたかだと思っています。上海株価が大幅に下がった時にホワイトハウスで歓声が上がったという話がありましたが、中国側からすると中国の株価に対しては、中国政府は政府系ファンドを使って下支えをするとか、なんともコントロールできるので、いちいち喜んでいるホワイトハウスのことを笑っていたみたいです。中国も音を上げることはしないので、戦いは長期化すると思います。



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

大江:なるほど。ありがとうございます。ここからは、今日の馬淵さんのパートでお話いただいた事について聞きたいと思います。いろんな問題が起こってくることについては、全部業者側が悪いわけではなくて、投資家側にも悪い部分が相当あるというお話でした。私も同じように感じていますが、本来であれば、それも含めて業者が話さなくてはならないのでしょうか。実際には難しいとは思いますが、その辺りはいかがでしょうか。

馬淵:まあそうですけどね。ちゃんと中立的な立場でやっていると言っている所もありますが、できているかをみるのは難しいですね。それと、先ほども申し上げたように、一人一人の証券会社の社員や銀行員は、本当にお客様のためになることをやっていると思っている人もいるので、みんながみんな、お客を陥れようと思ってやっていることはないと思います。でも、実際に双方にとって不幸なケースは起こっていますので、業者の方も襟を正すのは必要だと思っています。

大江:例えばスタイルドリフトが起こる原因などについても、もう少し伝えていく必要がありますね。我々は業者ではなくて、投資家側に立って情報発信をしていく立場にあるのですが、もっと投資家の人たちに理解してもらうことは必要ですね。

馬淵:そうですね。我々は、機関投資家や日経 CNBC やラジオ日経など、ある程度の知識を持った方を対象にしているメディアに出ることもあるので、分かっている事を前提に話をしていますが、入り口にいる方に対して説明ができていないかは考える必要がありますね。この辺りは、先日、岡本さんが Facebook に書かれていましたね。

岡本:はい。ひとつは口座を開設する前に、難しい説明を聞いてもらい書類に目を通してもらってハンコを押してなどで1時間くらい時間をかけるのだと思います。だいたい、話の内容もよくわからないのに本当にハンコを押していいのか不安になる。これは当然ですね。私の前職はアメリカ系の資産運用会社でしたけど、日本での業務は1990年くらいからスタートしました。その時、当時の会長兼 CEO から非常に強く言われていたのが、「客先にコンタクトしてから2年間は契約を取ってはいけない」ということでした。その点では極めてまじめな会社でした。2年間に渡って徹底的に顧客を教育しなさいと言われていて、運用者としてできる事、できない事をきちんと説明して、完全に顧客が納得して初めて契約を結ぶのだと言われました。その会社は、一度として顧客から訴訟を受けたことがないというアメリカでは非常に珍しい会社でした。

1時間くらい小難しい話をされて、「はい、できあがり」とやってしまうところに無理があるんだと思います。本当に分かって貰うためには、半年や1年くらいはお客さんとお話して、本当に理解してもらった時に契約を結ぶという、地に足の着いた営業が必要なんだと思います。証券会社も、お客さんには儲かってもらいたいと思っているんですね。お客さんなんですからね。



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

それで喜んで貰えればもっと商売になるんだし、損をさせることを目的としていることはまずないですね。もちろん、結果として損をさせることは多いとしてもですね。

馬淵:この前、ある地銀に呼んでいただいて、投資教育についてどう取り組めばよいかという話をしたのですが、その時に申し上げたのは、投資教育というのは、投資家を高めてあげるとい慈善的な話ではなくて、金融機関を守ることにもなるんですという説明をしました。投資家のレベルが上がってくれば、変なことを言ってきたり、トラブルになったりがなくなると思います。そういうことで投資教育を考えたらいかがでしょうか、という話をしてきましたたのです。

大江:私はシニア向けのお金のセミナーをすることがあって、そこでよく出てくるのが、60歳を目前にして残念ながら散財してしまったのか意識がなかったのか、「ほとんど蓄えがないのですがこれからどうしたらよいですか」という類いの質問なんです。私は私なりの答えを伝えるのですが、これに対して、岡本さんだったらどう答えますか。

岡本:それは、「今までのあなたの行動の結果ですから、これを受け入れて、今あるお金で幸福感を最大化してください」ということしかないですね。だって、ここで一発勝負をしようという訳にはいきませんからね。まだ多少の余裕があれば、何かしら手は打てるかもしれないけれど、そうでないのなら勝負はついていますよね。でもね、今日紹介しましたが、橘曙覧(たちばなのあけみ)の句のように、喜びはいくらでもあるんですよね。なにもお金だけが喜びの源泉ではない。お米も買えない電気は止められるとなったら話は別ですが、普通のレベルであれば心の持ちようなんだと思います。我が家で飼っていた猫は、太陽の陽が当たっているだけで幸せそうでしたからね(笑)。

大江:まあそうなんですよ。それしかないですよ。

岡本:はい。仕方ないですよ。だからその枠の中でどれだけ幸福感を最大化するかを一生懸命考えるべきだと思います。

大江:公的年金があてにならないと言っても、普通にサラリーマンをしていたのであれば、公的年金があるわけですからね、これの中身をちゃんと理解してそれにあった身の丈で生活をすればよいと、そういうことです。

岡本:いずれにしても、今か将来かって話で、今まで楽しんできちゃった訳だから、これは仕方がないですよ。

竹川:楽しみを先取りしたってことです。



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

大江:そうですね。そう考えてみれば、年取って身体が動かなくなってから楽しみをと言っても難しいかもしれないので、それはそれでひとつの手かもしれませんね。

馬淵:金融資産が積み上がっても幸せでない例は結構多いですけど、80歳の方に、なぜ投資をするのですか、とセミナーのアンケートを取ってみると、一番多い回答が、老後のためという答えなんです(笑)。では、心配なことはなんですかと聞くと、相続税ですとおっしゃるので、全部使ってしまうと相続の心配はしなくてよいですよと言うと、それはできないとおっしゃいますけどね。

大江:心配だ、心配だ、心配だですずっと来ているんですね。どこかで心配の連鎖を断ち切らないといけないですね。そうするにも、岡本さんが言われたように、いろんな楽しみを見つけるのはいいですね。

岡本:そうですね。趣味もお金が掛からないものがありますよ。例えば私が毎朝やっている太極拳。一人でやっているだけですからね。お金は掛からないです。それから、川柳ですね。どこかで手帳一冊、貰ってきたらそれで一年間楽しめます。瞑想もお金が掛からないですよ。目をつむっているだけですからね(笑)。

大江:以前、岡本さんが林望さんと書かれた本の中で、「減蓄」という言葉が出てきましたね。

岡本:リンボウ先生ですね。彼はね、断捨離というような要らない物から捨てていくということではなく、大事なものから手放して行って、自分が死ぬ時には、どう処分されても悔いが残らないものだけにしたいというのが一番良い生き方だという話をしていました。彼は書誌学者ですから、古い文献を持っているのでこれらを価値のある人にちゃんと譲ってから死にたいという意識が強いんですよね。ただ余り早いうちにこれをやってしまうと仕事ができなくなるので、そこが悩ましいと言っていました(笑)。

大江:私もその本を読んだ方から、減蓄という考えに共感したと聞きました。それは、自分が今持っている知識や経験や知恵を、若い人たちに伝えることによって、自分の持ち物を減らしていくんだと言っていました。

岡本:そうですね。今日も話をしましたが、遊びの時代の生き方ですよ。やはり知識を次の世代に継承して、次の世代の人的資産の形成に役立てるという面があると思います。

大江:みなさまの講演内容の補足となる良いコメントをありがとうございました。



I-OWA マンスリー・セミナー講演より 日本人にとっての第一次世界大戦

講演：板谷 敏彦氏
レポーター：赤堀 薫里

板谷 敏彦氏 経歴

西宮市生まれ、関西学院大学経済学部卒業。IHI(船舶部門)を経て証券業界へ。日興証券NY、機関投資家営業、クレディ・アグリコル・インドスエズおよびドレスナー・クラインオート・ワッサーズ・タイムでマネージング・ディレクター。みずほ証券株式本部営業統括。2006年にヘッジ・ファンド設立。現在は作家に専念。

船舶全般/国内外株式/デリバティブス/ストラクチャー/投資ストラテジー/投資理論/金融史に強みがある。現在、小説高橋是清「コレキヨ」(週刊エコノミスト)、読書万巻(週刊新潮)、「高論卓説」(フジサンケイ・ビジネスアイ)連載中。

著作

『日露戦争、資金調達と戦い-高橋是清と欧米バンカー達』新潮選書、2012年

『金融の世界史-バブルと戦争と株式市場』新潮選書、2013年

上記中国語版『世界金融史: 泡沫、戦争と股票市场』: 机械工业出版社、2018年

『日本人のための第一次世界大戦史』毎日新聞出版、2017年

共同翻訳に『プログラム・トレーディング入門』日本経済新聞社、1989年

現代との歴史的な類似性として経済史では、「トゥキュディデスの罠」ということが言われています。古代ギリシャの戦史を書いたのがトゥキュディデスです。スパルタが覇権を持っている時にアテネが勃興してきた。徐々に圧力を感じはじめたのがスパルタです。このような時は、戦争が勃興しやすいという事例を書いたモノです。台頭する国家は自国の権利を強く意識し、より大きな影響力(利益)と敬意(名誉)を求めるようになる。過去500年のうちでこうしたケースは16回あり、そのうち12回は大きな戦争になりました。直近にあったのが第一次世界大戦です。

習近平は「中国の夢」として中華民族の偉大なる復興を掲げています。中国人は世界中どこへいっても影響力を持ち尊敬される立場になるべきだ。中国は影響力と権力を求めるようになる。キンドルバーガーという金融恐慌の歴史を書いた経済史の先生が、「キンドルバーガーの罠」を提唱しています。「トゥキュディデスの罠」と並行してよく言われるのですが、第一次世界大戦が終わっ



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

た後、アメリカが覇権を持っているにもかかわらず、国際連盟に加入せず、世界の面倒をみることを拒否したので、第2次世界大戦へとつながったというのが、「キンドルバーガーの罠」です。

今回もこのようなことが起こるのか。アメリカのトランプは「アメリカファースト。世界は知らない！」と言ったばかりに、にわかに「キンドルバーガーの罠」だと注目されました。もう一つは中国が、インド洋地域で覇権を握っているにもかかわらず面倒を見なかった。「お金を貸したから港をよこせ」と言っている。こんなことをやっていると、また戦争の火種になる。これが第一次世界大戦と似ているという意味ですね。



もう一つは第一次世界大戦のころ、グローバリゼーションが進んでいたということです。蒸気船ができて、新聞は手刷りからロールペーパーになり自動印刷で、何万部も印刷ができるようになった。配布できる数が大きく異なってきた。蒸気機関車ができると、朝、駅で新聞を買えるようになる。ロンドンの近郊では100万部の新聞が刷られる。100万部なんて配達できませんからね。しかし、駅に置いておけば売れる。影響力をもったマスメディアがこの時登場してきた。電信によって同じニュースが世界中どこでも見られるようになった。クリミア戦争から日露戦争の時も同様に新聞を刷れるようになってきた。

この頃作られたのが、国民国家意識です。鉄道で大儲けした人は、ものすごい金持ちになり、穀物の相対的価値は、工業製品に比べてどんどん落ちてきます。農家はどんどん貧乏になる。格差が広がったのがこの時代です。トマ・ピケティが21世紀の資本論を書きましたが、世界で格差が広がっています。トランプが世界中で景気が良いと言っていますが、世界中で格差が広がっています。日本もアベノミクスで「景気が良い！」という人もいますが、非正規で入社した若者はそのままです。格差と不満がどんどん国内で累積しているということは事実ですね。

小野塚先生は、第一次世界大戦の開戦原因の中に「活発な経済成長の中に、富の蓄積にも関わらず不満を持っていた人が世界中にいたことが第一次世界大戦につながったのではないか」という仮説を立てておられます。この仮説は今につながっています。いわゆる国際分業と群集心理とリーカードの比較優位。国際分業が引き起こされる中でそれぞれの国々に残された人々、つまり低賃金で働く人がでてきてしまう。そういう人達が常に不満を抱えていてポピュリズムに簡単に流されやすい。だから世界でけんかが起こって、調子のいい政治家の言うことを聞いてしまう。

中国は独裁者が出てきしまう。トランプ大統領は批判もありますけど相変わらず人気がありますからね。もしかしたら戦争の危機が近づいているかもしれない。全体の結論として100年前に何がおきたのかちょっと知っておこうということです。



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

講演の後半では、日米開戦原因についての説明、歴史的知見として日本軍参戦、プロパガンダ戦争、終戦処理、ケインズの戦後処理について興味深いお話をしてくださいました。最後に、第一次世界大戦と株価について解説くださいました。ぜひ、板谷さんのご著書をお読みになってください。



I-OWA マンスリー・セミナー座談会より 板谷敏彦氏を迎えてのフリーディスカッション

座談会：、板谷 敏彦氏、参加者のみなさま
レポーター： 赤堀 薫里

参加者 | 僕らの世代は司馬遼太郎が好きです。司馬史観に影響を受けました。彼は、明治の時代はリアリズムが基本にありよかったけど、昭和に入るとおかしくなったと言っています。板谷さんの本を読むと、必ずしもそうではないのかなと感じます。つながっている中であったことではないかなと思います。

板谷 | 司馬遼太郎は日露戦争まで書いて、その後、書けるような人物が日本にいなくなってしまったということで筆を置いた。その後、暗黒時代になってしまった。本がなくなってから50年経っています。誤解がいっぱいあります。今、高橋是清を書いています。2.26事件の直前に総選挙がありました。これは完全に自由主義者が勝っているのです。



軍国主義を支持している勢力が選挙で負けています。国民は選んでいない。ところがその後、日華事変がおこり、それを機に報道をシャットアウトした。それで、ゴロっと変わるのがメディアスタンスです。

勘違いしているのが、軍国主義が進んで、是清がその中で殺され悲劇の人になっているという見方です。また、高橋是清のような立派な人、日本の景気を世界に先駆けてよくしてくれたのに、そんな人をどうして殺したのかという見方もあります。これは貧富の格差がすごかったからです。景気が良いのは一部の人達の話です。2.26事件が発生した頃は、地方の農村の人達は、今日、明日、自分のお姉さんが売られていく状況です。その時、高橋是清は、「農家は自立してもらわないと困る」という発言をしました。また、当時のグラビアに高橋是清一家の華麗な生活が出てしまうわけです。農家は絶望しますよ。

参加者 | そういふところの息子が、皆将校になるわけですね。



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

- 岡本 | 高橋是清の豪勢な生活が目に見えるようになったというのは、メディアのおかげですね。同じように、中南米諸国の人達が、アメリカの生活をネットで見ることができるようになった。ベルリンの壁が崩壊した時は、ビデオの影響が非常に大きかった。今まで西ドイツの人達は非常に悲惨な生活を送っていると教えられていたのが、ビデオの映像を見ると全然違っていたことがきっかけになったという話もあります。メディアの役割がすごく大きく、それが歴史を動かすことになるのでしょうか。
- 問題は総選挙まで行われていながら、最終的に庶民の声と全然違う、軍というものに主導権をとらせてしまったところにどういう経緯があったのでしょうか。
- 板谷 | 反対だから、軍が強権を発揮した。それに妥協した政治家がいたということです。自分が当選したいから、間違っているけれどまあこの場はいいやということですね。今の与党と似ています。そういう積み重ねがゴロンとヒックリ返ってしまう。民主主義の宿命ですね。中国はそれをわかっています。どっちの統治がいいのか、中国人はだんだん民主主義よりも今のやり方の方が良いと考える若い人が増えてきているそうです。
- 参加者 | ペンス副大統領の発言ですが、トランプ大統領だからアメリカの方針が変わるのか、共和党から民主党になれば変わるのか、それとも大統領が替わっても政党が替わっても起こるべき基本路線の変化なのですか？
- 板谷 | あれは、トランプのせいではなく、アメリカのインテリジェンスの層の総意です。民主党になっても基本は大きく変わらないです。
- 参加者 | 習近平は、ものすごい野望を抱いているわけではないと思います。中国だってこれから人口がどんどん減っていくわけです。国力も今がピークに近いところにいるので、ここで勝負を打っておかなければいけないというのが習近平の中にありますよね。
- 板谷 | そうですね。統治上の問題ですね。
- 参加者 | だから、アメリカも黙ってられないということになったのではないかなと思います。
- 板谷 | 独裁を引いたというのが引き金ですよ。
- 岡本 | 結局、日本だって、「窮鼠猫をかむ」じゃないけど、追い詰められた結果、あんなったというところがありますよね。皆、自国ファーストで、生き延びるためにしょうがないというところですよ。



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

板谷 | 満州がなければ日本は滅びると言いましたが、戦後繁栄していますよね。別に満州がないからというのは変な話です。

岡本 | 逆に、アメリカは勝ったから大変な負担を強いられていますよね。

板谷 | だから今、アメリカは、「嫌だ！」と言い出したわけですよ。「俺は知らん」と。そういう意味では似たような話が多いですよ。

参加者 | 結局、日本が第一次世界大戦に参戦したのも中国の利権の維持拡大、アメリカとの関係。今も極めて相似的なかたちになっています。どうしたらいいと思いますか。日本はアメリカについていくしかないのでしょうか。それともアメリカ、中国両方を見ながらバランスをとっていくのでしょうか。

板谷 | ついて行くとか行かないとか決めなくてもいいのではないのでしょうか。もっと柔軟になったほうがいい。是々非々でついていけば、結果としてついていくことになると思います。初めから中国へついていくという選択はないのではないのでしょうか。民主国家じゃないし。

参加者 | 日本はすごく有利な位置にいると思いますよ。ロシアとの関係を見ても、二島返還についていろいろ言っているけど、今年ロシアへ行ってつくづく思ったのは、絶対四島共に返ってこないですよ。もう一度ロシアと戦争して勝たない限り返ってこないですよ。どういう交渉をしているのか我々には見えないけど、2つでも返ってくるなら返してもらえばいいですよ。

板谷 | 返ってくるといってもロシア人住んでいるし、名前だけじゃないですか。今更あそこにミサイルを配備して日本になんの得があるのですか。それと中国が北極海の利権を狙い始めた。ロシアとしてはせめて日本と仲良くしておかないと。中国と日本が組んだら最悪じゃないですか。

参加者 | 日本は基本的にアメリ陣営ですが、中国とロシアを手玉に取りながらでよいと思いますよ。

板谷 | アメリカが分断社会になってしまった。日本人と中国人が違うほど、アメリカ国内の人種間で色々な違いが目立つようになってきている。

岡本 | それは、いろいろな民族が入ってくれば当然そうなりますよね。北朝鮮と韓国が一緒になった場合、日本の地政学的な立場はどうなりますか。



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

板谷 | 北朝鮮が核兵器を持ったまま統合された韓国ができてしまいます。人口的にはそろってくるのかな。20年30年後に収斂していくのかもしれませんが。北朝鮮の人口が増えますからね。

岡本 | かなり大きく変わってきますね。

板谷 | あの民族は特色が多いから。

参加者 | そういう意味ではEUに対するイギリスや、アジア大陸に対する日本の立ち位置は悪いですね。

参加者 | 何事もアメリカが支配しているというのが日本ということですか。

板谷 | 産業が依存していますからそれはしょうがないですよ。自動車の販売先がアメリカである以上しょうがないです。日本の株価指数は、アメリカの指数と為替で決まります。94%くらいの相関係数。世界中がアメリカ支配です。

参加者 | 日本が中国次第にならないでほしいですね。せめて。

板谷 | 中国次第でもあるわけです。

岡本 | そういう意味では、全部相互依存。

板谷 | トランプも最後まで言えない。

参加者 | 逆に統治者能力がない。

板谷 | ある程度、能力はあるのですよ。力の分だけある。番長じゃないからけんかを売ったりできないけど、横に意見は言うよね。

参加者 | 第一次世界大戦の前もグローバル化が進んで、相互依存で、戦争したってメリットがないと言っていながらなってしまった。今でもその通りなんですけど、どこに問題があるのか。何がネックなのかを考えておく必要がありますよね。

板谷 | どういう怒り方をするのか。核兵器が一番怖いわけです。一発撃ったら仕返ししますよ。



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

岡本 | そういう意味では第一次世界大戦と大きく違うのは兵器の発達。

板谷 | 戦争自体が、兵器の発達で大量の人間が死ぬ構造ができています。

参加者 | ヨーロッパや西洋にとってはどちらかというと第二次世界大戦よりも第一次世界大戦の方がインパクトのある戦争ですね。日本は戦後というと第二次世界大戦というイメージですね。

板谷 | 欧州で Great War というと第 1 次世界大戦ですよ。

参加者 | ちなみに第一次世界大戦は欧州大戦といいますよね。

岡本 | とても興味深い議論ができました。もっと我々、第一次世界大戦が起こった背景やその影響などについて知らなければいけないと痛感しました。ぜひ、板谷さんの著書をみなさんしっかり読んでください。ありがとうございました。



I-OWA マンスリー・セミナー講演より 投資耐久力をつける知識(下)

講演：岡本 和久
レポーター：赤堀 薫里

3回シリーズでお話してきた今回は、歴史と心構えについてお話します。歴史から学ぶことは、バブルは発生して崩壊する。しかし、いつバブルが発生して崩壊するのかは予想できない。大体バブルが発生して終わった後にあれはバブルだったとわかります。いま「これがバブルだ!」と言っているうちはあまりバブルではないことが多いのです。

いくつかのバブルを経過して世界の企業価値は増大して、価格は価値にいずれ反映されていく。長期的にはポートフォリオが保有する株式の価値は全体としては増えていきます。バブルがあろうがなかろうが、世界経済全体を総体としてみた企業の中にある株主資本が、だんだん増えていっている。その価値の増加はいずれ価格に反映されていくことになります。



いつもバブルの絶好の材料となるのは、明るい未来への展望です。将来に明るい展望があっても、目先の経済が停滞しているときにバブルは起こりやすいものです。経済危機は金融危機を引き起こします。そして危機の拡散を回避するために大幅に金融が緩和される。証券のリターンの源泉は、企業が生み出す付加価値以外はないのです。企業の生み出す付加価値は、短期的には実態経済に閉塞感があるのでなかなか増えない。しかしお金の量は増える。するとお金一単位あたりのリターンが希薄化していく。投資リターンが上げにくい時代になるのです。それを補うために用いられるのが、金融緩和を背景にした投資リターンを増やすためのレバレッジや、低格付けの証券投資、短期売買。それで派生証券や仕組み債が広がり、これらがバブルを一段と大きなものにします。

実体経済はあまり良くないのに資産価格は上昇する。上昇するからみんなが買う。それによってさらに価格が上がる。こうして資産・信用バブルが起こる。バブルが破裂しそうになるとグローバル金融危機を回避するために資金がさらに供給されます。公的資金により危ない金融機関が救済され、公的な債務が拡大していく。国の財政状況が悪くなり、緊縮財政になり、社会保障も増やせない。増税、超金融緩和が続き、通貨安競争に走りやすくなる。インフレはそんなに起こっていません。



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

んが、こういうことが庶民生活で非常に大きな不満感を生み出して、民衆の反乱が起こりやすくなったのがこの10数年の世界です。一方、グローバル化は、情報化によりネットやSNSで世界中の個人がどんどんつながることで、個人の活動や思いが一つの集団としてまとまりやすくなります。これが世界的に過激な行動を生み出す背景にあるのでしょう。

結局、金利は時間価値の現れです。金利がゼロになるということは、時間価値がほとんどなくなるということ。会社の経営も投資も、長期にわたって大きく儲けるという発想がなくなってきていることがすごく大きな問題だと思います。金利と時間価値がどんどん縮小していき、ショートターミズム（短視主義）が世界を支配する。できるだけ早くたくさん儲けたい短期投資。企業経営者も、とにかく早く儲けて多額の報酬をもらって逃げ去りたい。そんな風潮が世の中を支配します。

一方、投資耐久力強化で必要なのが心構えです。ある意味、資産運用の中で最も重要なことです。ある程度の知識はもちろん必要ですが、始めたら続けていく。その続けていくための心構えということ、これが成功のためのカギです。ポイントは、意識の時空を広げ、空間軸、時間軸を大きく広げること。いま・自分という小さな箱から飛び出して、永遠・世の中のことを考えるという心構えができてくると資産運用も非常にスムーズにできるようになると思います。

今の自分の身の回りばかりでなく意識を拡大して世界を眺めれば、個々人の生活、人生の質を向上する努力が続いている。特に発展途上国は新興国での生活は大きく変化しています。その膨大な需要を世界中の企業が満たしています。世界の人々のより良い生活への希求を満たしているのは世界中の企業です。人生を通しての資産運用はそれらの企業をまとめて長期保有しようというものです。意識が拡大していると、心から納得して時間軸を広げて長期で積立投資が無理なくできます。空間軸を大きく広げて全世界への株式投資をする。それは個別銘柄への投機、短期の投資からグローバル株式インデックスファンドの長期積立による資産形成の動きになるわけです。

意識や時間を拡大していくことで、資産運用は手間もかからないし、誰にでもできるものになります。これは非常に面白いことだと思います。資産運用の枝葉を切り落として簡単にすることを突き詰めるとそういうことになる。大きな変動が、ストレスの源泉になります。大きな心になるほどストレスがなくなります。

講演の前半は、株式市場の長い歴史を世界的に振り返り、チューリップバブルをはじめとした古典的なバブルの歴史を回顧し、80年代後半の日本株バブルについて解説くださいました。後半では、心構えとして、老荘に学ぶリラックス投資術、「井原西鶴」「石田梅岩」「二宮尊徳」に学ぶ資産運用と企業経営について解説され、老荘思想や和風の感性は、投資に非常に適したものと結ばれました。



知って得する、ちょっと差がつく トリビア・コーナー

トリビア研究家 末崎 孝幸

末崎 孝幸氏

1945 年生まれ。1968 年一橋大学商学部卒業、同年日興証券入社。調査部門、資産運用部門などを経て、日興アセットマネジメント執行役員（調査本部長）を務める。2004 年に退職。Facebook 上での氏のトリビア投稿は好評を博している。



コアラとユーカリの葉

コアラがユーカリの葉しか食べないのは、生き残るための進化だ。コアラは地上の生存競争に負けたため、ユーカリの木の上に場所を移した。ユーカリの葉には、季節によって猛毒の青酸が発生する。コアラは盲腸が長く、盲腸内の酵素で毒素を消化分解しているという。ただ、ユーカリの葉はエネルギー源に乏しい。このため、無駄に身体を動かさずにエネルギー消費を節約している。

ちなみに、コアラの名前は、アボリジニの言葉で「水を飲まない」という意味、水をほとんど飲まないために付けられたという。

ゼロ戦(零式艦上戦闘機)

ゼロ戦(愛称)は大東亜戦争における日本海軍の主力艦上戦闘機。当時の日本の軍用機は、採用年次の皇紀下 2 桁を名称に冠する規定になっていた。ゼロ戦の「零式」の名称は、運用開始した 1940 年(昭和 15 年)が皇紀 2600 年にあたり、その下 2 桁が「00」による命名である。

ゼロ戦は大東亜戦争初期、2200km に達する長大な航続距離・20mm 機関砲 2 門の重武装・優れた格闘性能によって、米英の戦闘機に対し圧倒的優位を収め、大東亜戦線の占領地域拡大に貢献し、米英パイロットからは「ゼロファイター」の名で恐れられた。しかし戦争中期以降には、米陸海軍の対ゼロ戦戦法の確立、米陸海軍の新鋭機の大量投入などによって、ゼロ戦は劣勢に追い



込まれてしまった。軽量であることが、(当初は)速度や航続距離等で優位を発揮したものの、防御力が弱い欠点を露呈してしまったのである。

(参考文献)「零式戦闘機」(吉村昭著、新潮文庫)

大川常吉の顕彰碑

このところの韓国大法院の理不尽な判決の報道に接するたびに想起するのが「大川常吉の顕彰碑」のことである。

大正 12 年の関東大震災直後、各地で朝鮮人が井戸に毒を入れたという噂が広まった。中でも横浜市鶴見では騒ぎが大きくなり、警戒を強めた民衆が朝鮮人と思われる人たちを警察に連行してきた。通信・交通が遮断した鶴見署では混乱を極めたが、分署長の大川常吉は毒が投げ込まれたとされる井戸水を飲むなどして民衆の説得にあたった。

その後も民衆は「朝鮮人を殺せ」などと騒いだが、最後は大川が命がけでおおよそ朝鮮人 300 余名の命を守った。そして、時代が下り(大川は昭和 15 年 63 歳で没)、昭和 28 年大川家の菩提寺である鶴見区の東禅寺に「大川常吉の顕彰碑」が在日朝鮮統一民主戦線(朝鮮総連の前身)の手によって建立されたのである。

その後、大川常吉のことは忘れ去られていたが、この 10 数年学校教育現場やメディア(テレビ)で取り上げられるようになった。しかし、残念ながら大川の献身的な行為が韓国内で話題になることはなく、また、韓国の駐日大使が大川の顕彰碑を参拝することもない。



瞬間接着剤開発のきっかけ

瞬間接着剤といえば、昭和 38 年に東亜合成が開発した「アロンアルファ」が有名で木材や金属を瞬時に接着させる工業用の接着剤として開発された。

しかし、もともと瞬間接着剤は戦時における兵士の傷の治療(緊急の止血)目的に 1955 年(昭和 30 年)イーストマンコダックが開発したものである(ベトナム戦争でよく使われたという)。日本でも昭和 40 年に医療用の「アロンアルファ A 三共」が発売されている。

もちろん、同じ瞬間接着剤といっても工業用と医療用では成分の純度等が異なるので代替はできない。



むすんでひらいて(作曲者は?)

♪むすんでひらいて・・・手をうってむすんで・・・♪、童謡「むすんでひらいて」の作曲者は「社会契約論」「人間不平等起源論」などの著作で有名な18世紀のフランスの思想家・ジャン＝ジャック・ルソーだ。(ただし、作詞者は不明)

1947年小学1年向けに刊行された最初の音楽の教科書「一ねんせいのおんがく」に、新しい歌詞で登場したのが「むすんでひらいて」だった。以来今日まで「むすんでひらいて」は歌い続けられ、童謡、唱歌として定着している。ただ、最近では小学校よりも保育園、幼稚園でのお遊戯歌としての印象が強くなっている。

雷門(浅草寺)

浅草といったら浅草寺、浅草寺といえば 雷門、その雷門の赤い大きな提灯は浅草のシンボルだ。その雷門、正しくは「風雷神門」という。浅草寺の総門として天慶5年(942)に建てられ、数度の火災による焼失、再建を繰り返したが、慶応元年(1865)の火災以来、雷門は存在していなかった。そして、昭和35年(1960)、95年ぶりに雷門は再建された。鉄筋コンクリート製の現在の雷門を再建したのは松下幸之助氏だ。あの赤い提灯の下には「松下電器産業」「松下幸之助」と金文字で刻まれたプレートが貼られている。社名はパナソニックに変わったとはいえ、このプレートを書き換える予定はないとのことだ。





資産運用こぼれ話 「お金と心」

200 パーセントのしあわせ持ちになれるシンプルな生き方

寄稿：岡本 和久



久しぶりに本を書きました。共著本を除くと二年ぶりの本です。齢(よわい)70を超えたとき、これからは本をどんどん出するのをやめて何年間に一冊、本当に書きたいことだけを書くことにしようと決めました。

大それた話ですが、アメリカの「敗者のゲーム」や「ウォール街のランダム・ウォーカー」のように数年に一度、改訂版を出すというのが私の理想です。夢のような話ですが、何年かに一度ずつ「お金と心」の改訂版をだしていければと願っています。

人生の目的はお金持ちになることではありません。また、出世することでもなく、権力を持つことでもありません。しあわせ持ちになることこそ人生の目的です。しあわせ持ちの六つの「富」はお金、健康、家族、友人、趣味、社会貢献です。つまり、お金はしあわせ持ちになるための大切な一つの要素ではありますが、お金がなければ幸せになれるというものではありません。

ところで私は90年代の初めから瞑想をしています。私が実践している超越瞑想(TM)は宗教とはまったく関係のない「心を扱う技術」です。私が感じる瞑想の効果は意識の時空を広げるということです。みんな、「自分・いま」という小さな箱のなかに閉じこもっています。しかし、瞑想を続けることで自然に世の中の事、ずっと未来の事にまで意識が及ぶようになります。それにより人生の質がずっとよくなります。

お金のことを考えると我々の生活が世界中の企業によって支えられていることに気づきます。投資とは時間をどう使うかということです。どう時間を使うかということはどう生きるかということです。つまり、お金と投資のことを深く考えると「ご縁のネットワークのなかでどう生きるべきか」という気づきを与えてくれます。これは瞑想による意識の拡大を加速してくれる効果があります。



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

そして意識が拡大するほどに迷わずに人生を通じての資産運用を無理なく続けることができるのです。空間軸の拡大はグローバルな分散投資を、時間軸の拡大は長期積立投資を心に負担をかけずに実行できます。

海の表面は荒波です。しかし、深海の潮流は力強く落ち着いた流れです。同じように株式市場で日々、株価が大きく変動しているのは表面の荒波のようなもの。グローバルに分散された長期積立ポートフォリオは深海の潮流のようなものです。

同じように我々の周りで日々発生するストレスも表面の荒波です。瞑想で意識が拡大し、深海の潮流に錨を下ろすようになれば心が騒がしく揺れることはないのです。日々のストレスにも、短期的な株価の変動にも動じない生活や投資ができるのです。

お金や投資の本当の知識は瞑想による意識の拡大効果を強化し、それにより生活もリラックスしたものとなり、将来のための資金形成も無理なくできるようになるのです。つまり、物心両面での200パーセントのしあわせ持ちになれるのです。興味のある方は是非、ご一読ください。2月10日には出版記念講演会を東京で行います。また、その後、各地で同様のテーマでのお話しをさせていただく予定です。

目次

はじめに

第1章 学びの時代～お金の基礎知識を得る

第2章 働きの時代～将来のための資産運用をする

第3章 瞑想でつかむ200パーセントの人生

第4章 私の人生と瞑想

第5章 遊びの時代～「しあわせ持ち」へのロードマップ

おわりに



お金と心—200パーセントのしあわせ持ちになれる シンプルな生き方

岡本 和久 著、発行：知玄舎／発売：星雲社、定価：【本体 1,400 円】＋ 税

「岡本和久新著出版記念講演会」のイベントページの URL は下記になります。

<https://kokucheese.com/event/index/547723/>

音楽と資産運用、 その先にあるものを

輪嶋東太郎、伊藤宏一、

お金は何のためにあるのだろうか？ そして音楽は？
それらはやはり、良く生きるための手段なのではないだろうか？
ならば物質的な視点を離れて、
もっと目に見えないものへの感受性を解き放ってみたい。
そしてそれが、今後のフロー型経済での生き方につながるのではない

提供するのは「愛」

伊藤：今日はクラシック音楽のコンサートをプロデュースしたり、音楽を通じた企業のメセナ活動（※注1）を支援されている輪嶋東太郎さんとお話ができるということで、とても楽しみにして参りました。

音楽と資産運用というのは一見、かけ離れたテーマに感じますが、コアの部分ではとても近いんじゃないかな、という気がしているんですね。

というのも、音楽はいわば人間の心の波を喚起するものですし、長期運用も、さまざまな人の思いや欲望が集まって振幅する市場や経済の世界を、心をもって生きていくことではないかと思うからです。

澤上：同感ですね。

運用っていうのは目に見えないもの、言葉に表せ

ないものを、自分なりに感じ取って行動していくことですよ。

いろいろな理論や指標、あるいは買い材料といった情報はあってもいいけれど、やっぱりそれらは補助的な判断材料や、後からの説明に使えるに過ぎないことが多いわけです。

市場や経済の世界では、未来に一体何が起こるか、どう展開していくかなんて、だれにもわからない。

ですから既知の情報にとらわれるよりも、その場、その瞬間で、言葉にならないものを敏感に感じ取る心を大切にしたいわけです。そして僕もこの辺、音楽ととても似ているところがあると思うんですね。

それと今回、輪嶋さんをお招きしたもう一つの理由なんですが、輪嶋さんは実に面白い活動をされています。

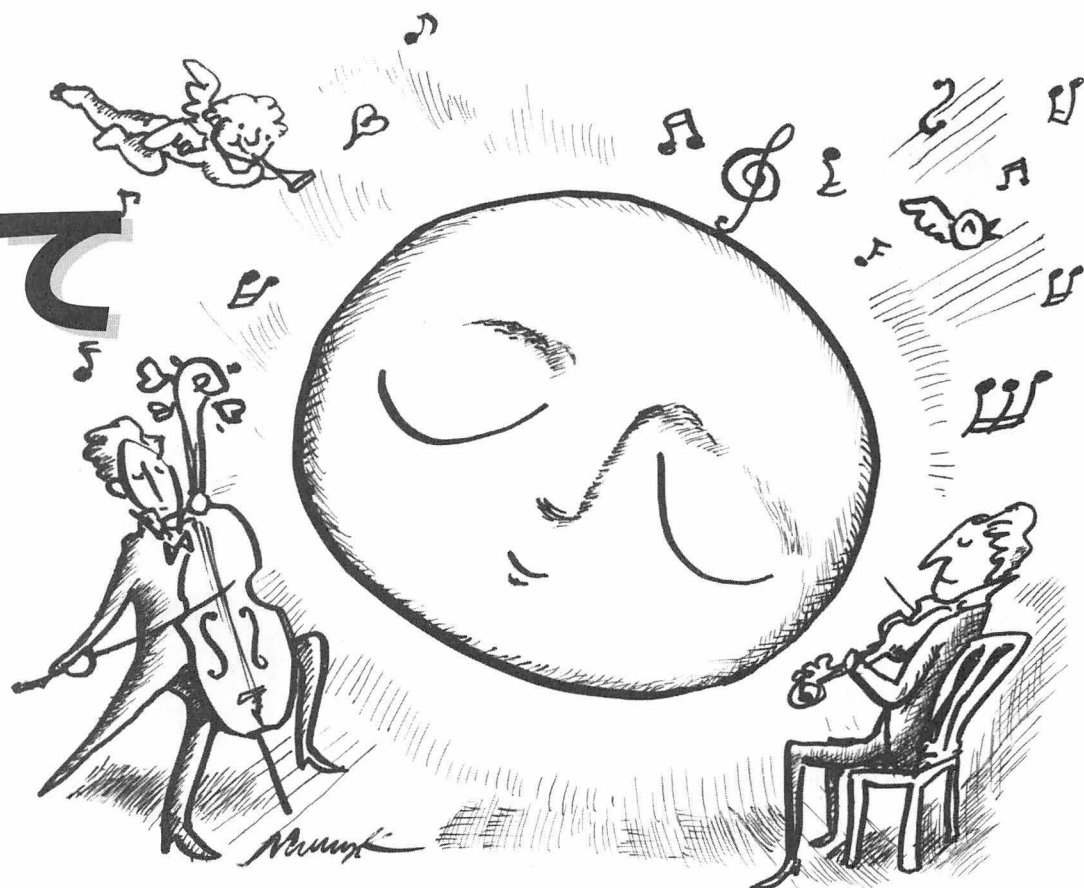
「クラシック音楽をもっと身近なものに」というこ

（※注1）メセナ（mécénat）：文化や芸術を保護したり支援したりする活動。

語源はローマ時代に芸術家を手厚く擁護した政治家、マエケナス（Maecenas）に由来する。

求めて

澤上篤人、平山賢一



だろうか。



輪嶋東太郎さん

音楽を通じた社会貢献をテーマに、クラシック音楽の演奏会の主催や、企業の文化支援活動のサポートに携わる。コンサートへの未就学児童の入場許可や、チケットのクーリングオフ制度など、日常生活に音楽を取り入れるためのさまざまな活動を展開している。ヴォイスファクトリー代表取締役。

とで、いろいろと創意溢れるビジネスを展開されているんです。

そして僕は、これが成熟社会での生き方やビジネスのあり方の、ひとつのモデルになりうるのではないかと感じています。

僕らも、本格的な長期運用を普通の生活者の人に会得して欲しいということで活動している

けれど、方向性が一緒なんですね。

伊藤：なるほど、お話しするのがますます楽しみのなってきました(笑)。

ではまず始めに、輪嶋さんから現在のご活動についてお話しして頂けたなと思います。

輪嶋：初めまして。輪嶋東太郎と申します。

私どもは10年ほど前から、おもにクラシック音楽の演奏会をプロデュースする活動をしています。

同時に、「音楽は社会に対して大きな貢献ができるにちがいない」という思いがあり、企業の協力を得てコンサートを催すなどの、いわゆるメセナ活動のエージェント業務も行っています。

企業と社会の橋渡し、あるいは企業が音楽を通じて世の中へ利益をお返しする際の、お手伝いといった仕事ですね。

いずれにしろ音楽を「売って」いるわけですが、ただし本当に提供しているのはあくまで「愛」、ということで日々生きています。

いきなり「愛」なんて言ってしまうと、退かれて

しまうかもしれませんが(笑)。



澤上篤人編集委員

澤上：いや、僕自身、輪嶋さんの主催するコンサートへ行ったことがあるんだけど、それは肌で感じました。

ちょっと普通のクラシックコンサートとは、会場の雰囲気からして違うんです。

「さあ、これから素敵なことが起こるぞ」という期待感で、

良い意味で開演前から何か会場がざわめいている感じなんです。

日本ではクラシックコンサートというと、お人形さんみたいに、お行儀はいいけれどカチンカチンになって聴くようなところがあるでしょう。

ところが客席の心が躍っているというか、バイブレートしているような雰囲気があるんです。

ですから、「単に音楽を売っているんじゃない、愛を与えているんだ」とおっしゃるのは、とても納得できます。

輪嶋：ご理解頂きまして、ありがとうございます(笑)。

私は昔から「音楽はなぜ人間のために与えられているんだろう」ということをよく考えるんです。で、それはやはり、人の心を豊かに満たすため、人を幸せにするためなんだろうと思うんです。

たとえば音楽を聴いたりして心が高揚している時って、思わず人に親切にしたくなりますよね。

伊藤：良いコンサートを聴いた帰りには、満員電車の中でも、見ず知らずの人に自然に席が譲れてしまったり(笑)。

輪嶋：そうですね(笑)。

一見ささやかだけれど、これって音楽の本当に大きな力だと思うんです。

何か、世の中を変えていくことにつながっていくと思うんですね。

オーストリアのあるプリマドンナが、「愛は目に見えないけれど、音楽は愛を目に見えるようにするのよ」と言っていますが、この言葉、私はとても好きなんです。

コンサートにいらしたお客さんが、やっぱり最初は毎日の生活や仕事で、ちょっと疲れた顔をしていたりするわけです。ところが演奏が終わって出て行

かれる時には、子どもみたいに無垢になって、顔がパーッと輝いていたりするんですね。

それから、演奏会の会場でアンケートを行うと、「昨日までは死にたいような気持ちだったけれど、また明日から頑張って生きます。私は八王子でお掃除の仕事をしている普通のおばちゃんです」なんていうメッセージがあったりして、「ハッ」とさせられることがあります。

みんな一生懸命に生きていますし、どの道を行っても人生は大変ですよ。でもそこに、音楽が生きる勇気を与えられるとするなら素晴らしいということとで、私ども、仕事を続けています。



伊藤宏一編集主幹

伊藤：ビジネスとしての音楽はたしかにマテリアルですが、大切なのはその先にある心だということですね。

僕は今年の夏もセミナーでいろいろな地方を訪れたんですが、ある町できれいな蓮の花が咲いているのを見て、こんなことを考えたんです。

「どうしてこんなに花はきれいなんだろう？」と。

世の中にはいろんな色や形の花がたくさんあるけれど、もしそれをきれいだと感じる自分の心がなかったら、その美しさというのは決して存在しないのだな、と思うんですね。

音楽も感動する人の心がなかったら、存在する意味がないし、これはお金でも同じですよ。お金だけがあっても、それが自分を幸せにしてくれるものでなかったら意味がないわけです。

そうした点、音楽とお金ってとても共通したものがありますよね。

心のバリア(障壁)を取り除く試み

伊藤：さて、先ほど澤上さんが紹介されていましたが、輪嶋さんはチケットのクーリングオフ制度だとか、クラシックコンサートへの子どもの入場許可だとか、いろいろと新しい試みをされているということです。

その辺についても教えていただけないでしょうか。

輪嶋：まずチケットのクーリングオフ制度ですが、

これはコンサートで最初に演奏家が舞台のそでに戻るところまで聴いていただいて、もし「演奏内容が想像していたのとは違う」ということでしたら、入場料をお返しするというものです。

初めて聴くアーティストでも、あるいはクラシック音楽にあまりなじみがないという人でも、安心してコンサートに来ていただけるようにということで始めました。

伊藤：あくまで、顧客の立場に立って演奏会を提供するということですね。

輪嶋：そうなんです。

コンサートのポスターとか宣伝パンフレットにはよく、「世紀のバイオリニスト来日」とか、「世界トップクラスのアーティスト」といった評論家の批評やうい文句が刷り込まれています。でもこれはあくまで音楽を提供する側の情報で、「ホンマかいな」というところがありますよね(笑)。

実際に聴いてみると、「なんだ、評判ほどじゃないや」なんてがっかりすることも少なくありません。

ところが、今まではもし演奏が良くなかったとしても、チケットを買ってお金を払うお客さんだけが、一方的にリスクを背負っていたわけです。

ですからそうではなくて、質の高い、良い演奏会を開いていくために、お客さんだけでなく音楽を提供する側も、みんなでリスクを背負っていきましようということでこの制度を始めたんです。

それから未就学児童の入場許可ですが、これもやはり従来、クラシック音楽の演奏会に子どもの入場が許可されるというのは異例だったと思います。

この「未就学児童お断り」の裏には、「小さな子どもはクラシック音楽を理解するにはまだ幼すぎて、演奏中に騒いだりしてほかのお客さんに迷惑をかけるから」という、大人の側、開催する側の恐れがあるわけです。

でも私自身は「本当にそうだろうか?」「これはある種の決めつけではないだろうか?」という疑問を抱いていたんです。

また、こうした従来の「業界の常識」が逆に、「子どもがいるので演奏会に行けない」といった具合に、かえってバリア(障壁)となって、クラシック音楽が身近になるのを妨げてきたのではないかとも思っていました。

そこで試みとして、入場年齢の目安を自分で客席

に座れる3歳以上として、なおかつ家族みんなで聴けるようにということで、入場料も1000円、2000円といった低価格に設定した演奏会を開いてみました。

伊藤：結果はどうでした?

輪嶋：最初のうちこそ少しザワザワしていたけれど、やはり5、6分もするとシンとして、通常の大人だけの演奏会と変わらない静けさになりました。

子どもたちは、それこそ集中して演奏に聴き入っているわけです。

結局、会場からのクレームが一件もなかっただけでなく、アンケートを取ったら、「目を輝かせて聴き入る子どもの姿に感動した」「一心になって聴く子

どもの姿から、多くのことを教えられた」といった意見がたくさん寄せられました。

音楽に無垢に接する子どもから、逆に大人が学べたというんですね。これも貴重な発見でした。

やはり、提供する側に感動がなければ

伊藤：こうした輪嶋さんのご活動ですが、音楽の業界の中ではどんな風に受けとめられているんでしょう?

輪嶋：クラシック業界というのはやはり格式を重んじるというか、お高い世界で、私たちのような泥臭いやり方は、異端なんですね。

高級料亭の中に、一軒だけ頑固オヤジがやってい



る蕎麦屋があるみたいで(笑)。

ただやっぱりこうした試みは、クラシック音楽における「心のバリアフリー」という成果をもたらしているという手応えは感じますね。

音楽というのは毎日の「生活」には必要ではないかもしれないけれど、「人生」には欠かざるべきものだと思うんです。

そのために良い音楽をもっと多くの人にとって身近なものにしていきたいわけですが、従来のクラシック音楽の世界というのは、やはり特殊な業界なんですね。

澤上：いろくなしきたりとか、序列があると。

輪嶋：そうなんです。

まず、音楽業界には演奏家だけでなく、評論家、そしてわれわれのような演奏会を主催するエージェントなど、実にさまざまな人が関わっています。

ここで特殊なのは、そこに関わっている人たちが、みんな強い階級的な構造の中に組み込まれている点です。

というのも、音楽というのは厳しい競争の世界なんですね。どこの音大に行って、どの先生について、コンクールで何位に入賞したかということで、演奏家の序列が決まっていきます。そしてその競争の中でプロの演奏家になるのをあきらめた人が、評論家になったり、エージェントになったりというところがあります。

もちろん、競争を通じて技術を磨くことは大変結構なんですけど、反面、音楽界の中だけの序列づけに終始して、肝心の聴衆、消費者を見ないという弊害もあるわけです。

さっき伊藤さんがおっしゃったように、「きれいな花も、見てくれる人がいなかったら存在しないのと同じ」「音楽は聴いてくれる人がいなかったら意味がない」ということを忘れていたような人が結構いるんですね。

それで、「私たちは高尚なえらいことをやっているの。良さが判らないのは、あなたたちの程度が低いからよ」ということで、一方的な発表会をやっているケースが多々あるわけです。

それから評論家も、だれその弾くベートーベンの何番は、ほかのよりも演奏時間が5秒長い、いや短い、といった議論ばかりしていたりします。

マニアックな仲間内の興味に終始していて、肝心

の観客へどう音楽の素晴らしさをアピールするかという姿勢に欠けている部分があると思うんです。

伊藤：日本では、子どもの頃にピアノやバイオリンを習っている人って結構多いですよね。でも、なぜか日常的に家庭や仲間演奏して楽しむという人はあまりいません。

それから、今は地方の小さな町でも立派な音楽ホールを持っていますが、そこで定期的にコンサートが開かれて、住民の人たちが音楽に親しんでいるかというところでもないようです。

どうしてなのかな不思議に思っていたんですが、音楽を提供する側にも原因があるということですね。

輪嶋：日本では現在、1300とか1400の公共ホールがあると言われています。パイプオルガンを備えているところも少なくないですし、1000万円以上するようなスタンウェイのピアノがこれほど普及している国というのも、世界で稀です。

せっかく物質的なクラシック音楽の環境が整っているんですから、これを良い形で根づかせていって、国民のものにしていけたら素晴らしいと思うんですが、これが私どもの仕事だと思っています。

それこそ数年前、ついに新国立劇場という国立のオペラ劇場ができましたが、よくこんな冗談が言われるんです。「オペラ座の怪人よりも、オペラ座の役人が怖い」と(笑)。

あれが本当に「国民劇場」になっていくためには、まず音楽を提供する側の間人自身が、音楽がどれほど日々の生活の中で心のエネルギーや慰め、勇気の源になるかということを感じなければいけないわけです。そうでなければ、絶対に他者には伝わらないと思うんですね。

最終消費者が無視される 日本社会の構造

平山：輪嶋さんのお話を聞いていて感じたんですが、生活感覚と離れたところで、マーケティングやプロデュースが行われているというのは、金融の世界とよく似ていると思うんです。

たとえば、金融の世界でプロモーターだとか、エージェントに当たるのが証券会社や銀行、生保ですね。

それから評論家に当たるものに、コンサルタント

が存在します。

彼らは大口の顧客に対し、資産を運用する運用機関の業績を「客観的」に評価して、説明をするのが仕事です。

輪嶋：その実、どうなんですか？ あくまで素人の感覚ですが、そういうことを「客観的」に絶対評価するなんてできないと思うんですが。



平山賢一編集委員

平山：あり得ないですね(笑)。

コンサルタントは、運用の教科書に書いてあることを基準にしてレポートを作成しているわけですが、運用の世界というのは変動の世界ですから、今年パフォーマンスが良かった所が来年も良いとは限らないし、逆に今年調子が悪

くても、来年は浮上しているというのはよくあることなんですね。

ですからコンサルタントの出す評価も、状況に応じて変りやすいのです。

さらにそのコンサルタントを雇っている大口の顧客も、コンサルタントの言うとおりにしないと説明責任が果たせないということで、変化変化の連続で嫌になってしまうという話も聞きます。

結局、金融市場と、お金を預けている一人ひとりの間に、媒介物が入った格好で、満足な成果が得にくいということになっています。

輪嶋：こうしてみると、現在の音楽業界と金融業界というのは、驚くほど共通した問題を抱えているといえそうですね。

澤上：政府が主導するピラミッド型の構造になっていて、いろいろと規制やしきたりがある点も似ていますし、まだまだ投資ということが一部の投機家、マニア的な人のものでしかない点も同じですね。

一番の受益者であるはずの国民がかやの外におかれていて、世界でも有数の豊富な金融資産が、既存の金融機関の中で眠ったままで有効に使われていない。

これもさっきの立派なコンサートホールが有効に

使われていない話とそっくりです。

そしてリスクは国民や一般の顧客、消費者ばかりが負わされているのも同一ですね。

金融や音楽だけでなく、日本という国ではすべてのことがらで、国民はこうした状態に押し込まれているということなんでしょうね。

生活に文化を取り戻す

伊藤：ではどうしたらいいかということなんですが、やはりここは、金融の——音楽や他の芸術・学問といった分野でも同様ですが——本当の意味で生活に根ざした文化を改めてつくっていくことが大切だと思うんです。

ウィリアム・モリス(※注2)という人は、産業革命の進行で無機質なデザインの生活用品や建築物が増える中、芸術や文化を生活の中に取り戻そうと、家具やテキスタイル(織物)、建物の内装や外装、それに社会主義運動の旗までデザインしましたね。

それと同じように、金融も日常生活の中に取り戻す努力が必要だと思います。

特殊な専門家に委ね切るのではなく、それこそ料理をしたり、あるいは昔はどこの主婦でも自分で着物を仕立てることができたのと同じように、基本的な生活技術として運用の技術を身につけなければならないと思うんです。

輪嶋：おっしゃるとおりですね。

伊藤：音楽もそうですね。

沖縄とかバリ島では、音楽や芸能が生活の中にしっかり根づいていて、みんながアーティストですね。

ちょっと人が集まってお酒を飲む時とか、だれかがおもむろに三線^{さんしん}を取り上げて、それでみんな踊り出すという感じでしょう。

本来、生活の中で自分のいろいろな感情を表現したいという気持ちはみんなにあると思うのですが、近代芸術というのは純粋性を追求するから、やはり専門家ができて生活からはどんどん、遠ざかってしまったんですね。

(※注2) ウィリアム・モリス(William Morris 1834~1896)：19世紀イギリスの工芸デザイナー、詩人、社会運動家。

産業革命の進行で無機質なデザインの生活用品が溢れる中、工芸品に草や木、蔦といった自然と調和した芸術を取り入れる「アーツ・アンド・クラフト」運動を興し、その後の工業デザインに大きな影響を与えている。

そして、これは金融も同様だと思います。

ただし、ここに来て世界的な趨勢として、金融を日常生活の中に取り入れる動きが起きています。

まずイギリスでは、「Adult Financial Capability Framework」、つまり「大人のための金融能力のフレームワーク」というものが2002年の9月にできました。

イングランドでも成人人口の約23%が、本来16歳くらいまでに身につけておかななくてはならない基本のお金の知識を備えていないというんです。

向こうで買い物をして釣り銭をもらう時に、店員さんがきちんと引き算ができない、なんていうこともあります。

イギリスはすごく金融の発達した国だというイメージがありますが、階級格差もありますし、ごく一部の専門家が主導しているだけというのも現実なんですね。

でも、直接金融が浸透していく中で、それではだんだん間に合わなくなってきた。そこで、政府も本格的な一般人向けの金融教育に乗り出したということです。

こうした状況を迎えているのは、日本でもまったく同じですね。



見えないものを感じる力

澤上：生活感覚の中に金融を取り入れてしまうという姿勢は、長期運用ではとても大切ですね。

生活感覚とか常識といったものから離れて投資を行っても、決していい結果は出ないからです。

実際の長期投資では思い切り感情を移入したり、いい投資だと思えばどんどんのめり込むような局面もあっていいわけです。周りの人から「そんなにのめり込んで大丈夫？」と心配されても「うん、いいんじゃないの」という格好で、もう止まれない。でも、僕はそれで構わないと思うんですね。

ただしその時、何かその流れとうまく融け合って、調和しているような感覚があるかどうか、というのはとても重要だと思います。

もし調和している感覚があるなら、結果が良いことが多いんです。でも、生活意識から離れて頭でっかちになると、どこかで引っかかってしまう。

平山：思い当たるところがありますね。

運用の仕事というのは、どれだけほかよりもパフォーマンスを上げたかという数字の競争ですが、でもマーケットと自分が対立して競争しようと思うと、大きく穴を開けてしまうことが多いように思います。

未来というのは不確定な世界ですから、自分がどんなに頑張っても、客観的に見れば当たる確率は半分でしかないんですね。そこで無理をして頑張ると、結局、損する額が大きくなってしまいます。

ところが、マーケットと仲良くしていこう、一体化していこうとしていると、何か大きく相場が動いた時に、市場の気持ちが感じられるように思うことがあるんですね。

そうすると勝つ確率が51%になるような気がしますし、また損した時の痛手も浅くて済むように感じています。

輪嶋：僕も、おっしゃることがよくわかります。

いや、僕らとアーティストとの関係とまったく同じだと思いながら聞いていました。

アーティストに接して、「この人こそは世界をいっぱい幸せにしてくれる人だ」と思うと、やっぱりグワッとめり込んで、もう止まらないんですね。

で、そういう思いには向こうも必ず応えてくれて、

実に素晴らしい仕事をしてくれるんです。

彼らは僕らの思いを受けとめて精進してくれるし、僕らもできる限りサポートしようということで努力しますから、良い関係ができるんですね。

ところが、「こいつとつるんで、金儲けしてやろう」といった何か下心があると、アーティストとの関係も必ず破綻します。

伊藤：そういう風に、目に見えないものを心で感じ取りながら行動していくことって、これからの時代はとても大切ですね。

今までは資産というと預貯金や株式、不動産のような目に見えるもの、有形資産を指しましたが、現在、この比率がグッと下がってきています。

逆に、直接目には見えないブランドや知的所有権、特許権、それにビジネスのノウハウといった、インタンジブル・アセット (intangible assets：無形資産) の比重が急速に高まっています。

そしてこのインタンジブル・アセットをどう評価するかということについて、会計学の世界では盛んに議論されています。

でも、つまるところ、インタンジブルズの価値を評価するのは、花を見て美しいと思ったり、音楽を聴いて感動したり、あるいは人とつき合う時に「下心があってはいけないな」と気づくような感受性だと思うんですね。

そしてまた、このインタンジブルズを評価できる心や感受性を持っていることこそが、これからの時代、豊かに生きたり、資産を形成していく上での条件ではないかと思うんです。

フロー型経済を生きるために

輪嶋：それで思い出したんですけど、先日、うちの会社にも銀行さんが来て、「お金を借りて欲しい」と言われたんですが、僕は断ったんです。

「あなたたちは、人にお金を貸すのじゃなくて物に貸すから嫌です」と。

結局、バブルで経済がこんなにおかしくなってしまったのも、人ではなくて、物や土地にお金を貸したからですね。

人の志や能力を見て、「これだけの仕事をする人だから、私はあなたに張るよ」ということだったら、

土地やビルがなくなってしまうても、お金は返ってきたと思うんですね。

ところが銀行さんは、目に見えるものしか信じません。それで、「アンタ、いったい、何見てまんねん」というようなことばかりやっていた (笑)。

澤上：この、見えないものを感じ取るという感覚こそが、フローベースの経済で生きるための決定的な条件ですね。

おっしゃるようにストックベース、モノ・不動産ベースの経済では、モノだけを見ていれば良かったんです。ところがこれからはそうではない。日本人は、早くここに気づかなければならないんです。

たとえば、ヨーロッパの富裕層といわれる人たちは、お金を使うことを恐れないんですね。

なぜなら、お金が社会を流れる (フローする) ことによって経済全体が回り、それで多くの人々の生活が成り立ち、結果的には自分たちに戻ってくるということを知っているからです。

また本業でも稼げる自信があるから、手持ちのお金を投資や社会還元に向けることが平気なのです。

お金を放り込むことを恐れないので、みんなが手を出せない時に結果として安く買えてしまう。

これがもし「儲けよう、儲けよう」と計算したら、下がっている時はとても恐くて買えないので、かえって高値づかみをしてしまいます。

また、こういう人たちは、お金を儲けて抱え込んで幸せといった感覚ではないんです。なんというか、「儲けよう、儲けよう」というのじゃなく自然体で買いを入れて、儲かったら、「さて、じゃあ今度は何に使おうかな」と、もう次を考えているという感じです。美味しいワインを飲んだりしながら (笑)。

輪嶋：モノやお金を持っているけれど、それにとらわれないからますます豊かで、人生が面白くなっていくという格好ですね。

外国に行ってホームレスの人を見て、豊かさということについて考えたことがあるんです。

まず、ニューヨークのホームレスの人というのは、ほとんどがゾンビ、屍のようになって生きています。やはりアメリカという国は一面、非常に物質的な価値観が強いから、ホームレスということは社会からの完全な脱落なんですね。

ところがローマに行くと、ホームレスが非常に明るく生きていて、なんだか住む所のある僕らよりも

よっぽど幸せそうに見えるわけです。

この違いは何なのかと考えたんですが、やはり彼らは、「人間にとって一番不幸なことは、お金がないことじゃない」ということを、長い歴史を通じて感性の中に持っていることだと思うんです。

それぞれが違う顔をして、違う人生を歩きながら、めいめいに自分の幸せを見い出すということです。

カーニバルをする時も、どんな豪華な衣装をまとうてパレードするより、新聞紙一枚をまっただけでもそこにファンタジーがあれば美しいと感じる文化、美的センスですね。

これから50年後、100年後、別に音楽を聴いていなくても、いつも心の中で音楽が鳴っているような人たちが増えている、そんな社会になったなら、という事で僕らも活動しているんですが、この辺、み

なさんの資産運用の目的とも一緒なんじゃないでしょうか？

澤上：いや、まったく同じ（笑）。

そしてそれには今日、輪嶋さんとお話できたように、いろいろな異なる分野の人と触発し合えるのはとても貴重なことです。でも、そういう貴重な触れ合いを持てるのは、別に必死になって嗅覚を働かせているからじゃないですよ。

心のバイブレーションを高めようとしているから、お互いに響き合って感応することで、仲間に出会えてしまうのでしょうか。

金融でも音楽でも、それから日々の生活でも、豊かに生きようとするなら、心のバイブレーションを高めることが大切なのは一緒だと思うんですね。



共 鳴 す る 響 き

——輪嶋東太郎さんの主催するオペラ公演を聴いて——

平山賢一

輪嶋東太郎さんのお誘いで、久しぶりにオペラを聴きに行きました。

曲目はヴェルディの「イル・トロヴァトーレ」です。

メゾ・ソプラノはイタリアのフィオレンツァ・コッソットさん。そしてバリトン韓国のハンス・チョイさん。

圧巻は、ジプシー役のコッソットさんの「魂を揺さぶる存在感」。彼女が舞台に立つのは第二幕ですが、第一幕から舞台上がっていた歌手たちに変化が見られます。

そうです、コッソットさんの揺さぶりが、他の出演者を一変させたのです。中でも、ワールドカップで韓国国歌を歌った韓国の至宝・ハンスチョイさんに変化が……。

ハンスさんは、さすがに力量のある歌手ですから、「発声の重心」と「身体重心」が、ぴったりと重なっていて、素晴らしいことには違いありません。

しかしながら、コッソットさんの声を第二幕で彼自身が聞いた後では、今度は「身体重心」が「舞台重心」

へ、そして「コンサートホール全体の重心」へと転移していったように感じられたのです。

さて、一人の偉大さが、周辺の人々に変化を与え、さらにその影響力が拡大していく共鳴の響きは、何もコンサートホールだけではありません。

舞台上に立つ歌手や演奏家たちも、演奏会を離れた日常生活の中での経験や思い、そして決意が凝縮しているだけの話。

このホールで経験した共鳴の様は、日常生活にこそ成り立ちえるのでしょう。そのことをコッソットさんは教えてくれているように感じました。

何も変わらないことを嘆くよりも、変える共鳴の因子や波動となって、響き合いながら、「変えていく」重要性を学ぶ一日でもありました。

投資や金融の世界もそうでしょうし、経済や社会全体も、また同じことなのでしょう。

<モデルポートフォリオ:2018年12月末の運用状況>

単位: %

		トータルリターン				リスク	1万円ずつ積み立てた場合の 投資額に対する騰落率			
		1ヵ月	1年	5年 (年率)	10年 (年率)	10年 (年率)	1年 12万円	5年 60万円	10年 120万円	2000年1月 ~ 228万円
4資産型	積極型	-8.47	-10.75	5.02	9.22	15.51	-9.46	7.53	55.59	74.78
	成長型	-5.44	-7.31	3.93	7.06	10.88	-5.97	5.61	39.59	60.23
	安定型	-2.41	-3.95	2.69	4.75	6.83	-2.50	3.42	24.86	44.60
2資産型	積極型	-8.33	-9.63	5.01	10.54	17.09	-8.46	7.93	58.64	88.13
	成長型	-5.61	-7.21	3.83	8.00	12.65	-5.58	5.40	42.17	70.21
	安定型	-2.88	-4.90	2.55	5.32	8.91	-2.74	2.71	27.15	51.46

* 投資にかかるコストは控除していない。積み立ては、税引き前分配金再投資。ポートフォリオは毎月リバランスをしたものとする。
積み立ては計算月数分を運用したものとする。例えば1年の場合は2017年12月末に1万円投資資金を積み立て始め、
2018年11月末の投資資金までとする(2018年12月末積み立て分は運用期間がないため含めていない)。

出所: イボットソン・アソシエイツ・ジャパンがMorningstar Directにより作成。MorningstarDirectについてのお問い合わせは
「投信まとなび」のお問い合わせメール(<https://www.matonavi.jp/inquiry>)にてイボットソン・アソシエイツ・ジャパンまで。

ポートフォリオの資産配分比率(外貨建て資産は円換算ベース)

		国内株式: TOPIX	外国株式: MSCI KOKUSAI	国内債券: NOMURA- BPI (総合)	外国債券: FTSE WGBI (除く日本)
4資産型	積極型	40%	40%	10%	10%
	成長型	25%	25%	25%	25%
	安定型	10%	10%	40%	40%
2資産型		世界株式: MSCI ACWI (含む日本)		世界債券: FTSE WGBI (含む日本)	
	積極型	80%		20%	
	成長型	50%		50%	
	安定型	20%		80%	

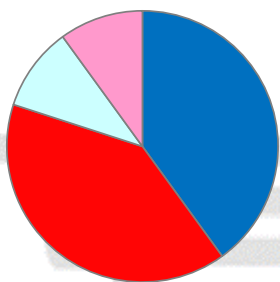
ポートフォリオは「インベストラيف」が参考のために考案した資産配分に基づき、イボットソン・アソシエイツ・ジャパンがデータを算出しています。
特定の資産配分による投資の推奨を行うものではありません。

「長期投資仲間」通信『インベストラيف』の
その他の記事はこちらからご覧ください。
<http://www.investlife.jp/>

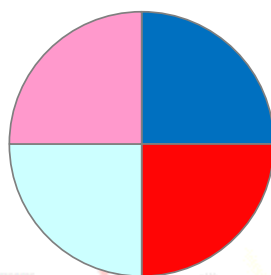
4資産型

- 国内株式:
TOPIX
- 外国株式:
MSCI KOKUSAI
- 国内債券:
NOMURA-BPI
(総合)
- 外国債券:
FTSE WGBI
(除く日本)

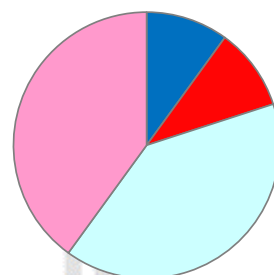
積極型



成長型



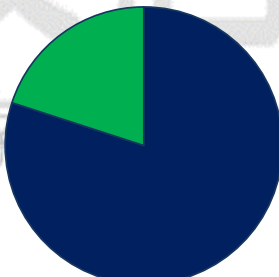
安定型



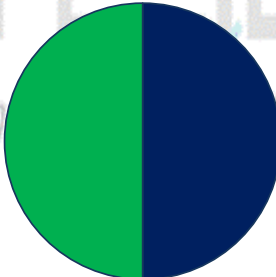
2資産型

- 世界株式:
MSCI ACWI
(含む日本)
- 世界債券:
FTSE WGBI
(含む日本)

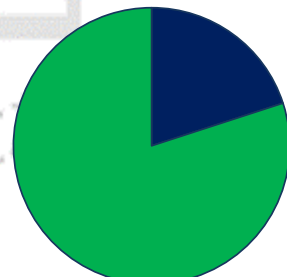
積極型



成長型



安定型



<純資産上位ファンド(毎月および隔月決算型を除く):2018年12月末の運用状況>

当資料は「インベストラ이프」のために、イボットソン・アソシエイツ・ジャパンがデータを算出、作成しています。特定の投資信託による投資の推奨を行うものではありません。
※ファンド名をクリックすると「投信まとなび」でそのファンドを見ることができます。

「長期投資仲間」通信『インベストラ이프』の
その他の記事はこちらからご覧ください。
<http://www.investlife.jp/>

今回 順位	前回 (18年 9月末) 順位	運用会社名	ファンド名	トータルリターン				リスク	1万円ずつ積み立てた場合の 投資額に対する騰落率				1万円ずつ積み立てた場合の 月末資産額				2018年12月末		イボットソン 分 類
				1ヵ月	1年	5年 (年率)	10年 (年率)		1年 12万円	5年 60万円	10年 120万円	2000年1月 ~ 228万円	1年 12万円	5年 60万円	10年 120万円	2000年1月 ~ 228万円	純資産 (億円)	基準価額 (円)	
1	1	レオス	ひふみプラス	-13.43	-21.23	10.72	-	-	-19.73	19.26	-	-	9.63	71.55	-	-	5,306.2	33,268	国内株式・キャッシュバランス型
2	4	野村AM	野村インド株投資	-2.91	-10.38	12.74	13.13	30.33	-3.92	22.85	70.58	-	11.53	73.71	204.69	-	4,422.9	25,242	外国株式・インド型
3	2	日興AM	グローバル・ロボティクス株式ファンド (年2回決算型)	-12.11	-18.68	-	-	-	-15.81	-	-	-	10.10	-	-	-	4,020.8	8,463	外国株式・世界型
4	3	日興AM	グローバル・ロボティクス株式ファンド (1年決算型)	-12.09	-18.68	-	-	-	-15.81	-	-	-	10.10	-	-	-	3,860.5	12,298	外国株式・世界型
5	7	AM-One	グローバル・ハイクオリティ成長株式ファンド (為替ヘッジなし)	-8.36	-8.19	-	-	-	-11.72	-	-	-	10.59	-	-	-	3,427.3	14,187	外国株式・世界型
6	5	フィデリティ投信	フィデリティ・日本成長株・ファンド	-12.49	-24.09	3.46	7.87	19.76	-20.34	0.31	42.73	44.76	9.56	60.18	171.27	330.06	3,248.4	19,263	国内株式・大型成長型
7	6	大和投信	ロボット・テクノロジー関連株ファンド -ロボテック-	-11.66	-18.30	-	-	-	-16.01	-	-	-	10.08	-	-	-	3,081.5	10,533	外国株式・世界型
8	9	野村AM	野村PIMCO・世界インカム戦略ファンド Aコース(為替ヘッジあり 年2回決算)	0.02	-3.35	-	-	-	-1.61	-	-	-	11.81	-	-	-	3,030.0	10,333	外国債券・世界型(円ヘッジ)
9	8	さわかみ投信	さわかみファンド	-9.51	-17.23	4.68	8.67	19.48	-13.61	5.99	48.99	66.53	10.37	63.59	178.79	379.69	2,774.4	22,717	国内株式・大型ブレンド型
10	10	三井住友AM	グローバルAIファンド	-10.70	-7.04	-	-	-	-12.07	-	-	-	10.55	-	-	-	2,488.4	13,168	外国株式・世界型
11	11	ゴールドマン・S	netWIN GS インターネット戦略Bコース (為替ヘッジなし)	-8.99	-1.48	12.26	19.24	25.23	-8.20	32.33	130.05	179.98	11.02	79.40	276.06	638.36	2,403.1	12,796	外国株式・北米型
12	-	AM-One	新興国ハイクオリティ成長株式ファンド	-5.92	-17.30	-	-	-	-12.86	-	-	-	10.46	-	-	-	2,160.9	8,474	外国株式・新興国型(複数国/ 地域)
13	15	日興AM	インデックスファンド225	-10.32	-10.78	5.54	9.92	20.55	-10.31	12.35	67.27	77.76	10.76	67.41	200.73	405.30	2,093.5	5,511	国内株式・大型ブレンド型
14	14	アムンディ	SMBC・アムンディ プロテクト&スイッチファンド	-1.37	-4.98	-	-	-	-3.35	-	-	-	11.60	-	-	-	1,999.6	9,559	アロケーション・リスクコントロール型
15	-	三井住友トラスト	次世代通信関連 世界株式戦略ファンド	-9.57	-13.38	-	-	-	-12.34	-	-	-	10.52	-	-	-	1,982.3	8,725	外国株式・世界型
16	22	AM-One	日経225ノーロードオープン	-10.33	-10.97	5.20	9.52	20.49	-10.38	11.51	63.76	71.23	10.75	66.90	196.52	390.41	1,979.3	13,917	国内株式・大型ブレンド型
17	13	ゴールドマン・S	GSグローバル・ビッグデータ投資戦略 Bコース(為替ヘッジなし)	-12.47	-15.28	-	-	-	-14.62	-	-	-	10.25	-	-	-	1,965.7	9,989	外国株式・世界型
18	12	日興AM	グローバル・フィンテック株式ファンド	-13.00	-8.92	-	-	-	-13.19	-	-	-	10.42	-	-	-	1,786.5	13,071	外国株式・世界型
19	21	AM-One	MHAM株式インデックスファンド225	-10.32	-10.80	5.48	9.85	20.50	-10.31	12.18	66.74	76.46	10.76	67.31	200.09	402.34	1,682.4	3,712	国内株式・大型ブレンド型
20	18	セゾン投信	セゾン・バンガード・グローバルバランスファンド	-5.41	-7.89	3.19	7.19	12.21	-5.53	3.68	37.09	-	11.34	62.21	164.51	-	1,614.3	13,618	アロケーション・やや積極型

対象は追加型株式投資信託のうち2018年12月末時点で1年以上の運用実績があるもの(毎月・隔月決算型、ETF、DC・SMAなど専用投資信託を除く)。
積み立ては税引き前分配金再投資、計算月数分を運用したものとする。例えば1年の場合は2017年12月末に1万円で積み立てを開始し、2018年11月末投資分までの2018年12月末における運用成果とする(2018年12月の積み立て額は入れない)。
出所: MorningstarDirectのデータを用いてイボットソン・アソシエイツ・ジャパンが作成。MorningstarDirectについてのお問い合わせは「投信まとなび」のお問い合わせメール(<https://www.matonavi.jp/inquiry>)にてお気軽にご送信ください。